

～四旬節黙想会～

《講話1》

祈り：私たちの四旬節の黙想会、神様の御心に従って回心をし、求められる自分になることができますように。

一主の祈りー

司教になって5年半、京都教区の黙想会に呼ばれるのは初めてです。四旬節の黙想会ということでテーマは「回心」ですね。回心とは言っても特別なことをするのではなく、普段していることを見直すということをしようと思います。

こうして黙想会に来られている皆さんは、そこそこされていると思いますが、そこがまた落とし穴になります。私はここまでしている……。ミサに来たくても来られない方もいらっしゃいます。ミサに来て黙想会に参加できるのはお恵みなのです。

ですからごミサに来てお祈りをする時もミサに来られない方の為にも、洗礼を受けていない家族の為にも祈りましょう。 レジメには3つの祈りを載せています。

主の祈り、アベ・マリア、詠唱です。一番上に書かれていることは少し違います。「神を知り、自分自身を知る、そこから神ありご。」

神様から見て自分はどうか、自分を知ることであり、神様、ありがとう、ごめんなさい、に繋がります。神様が私たちに望んでいることは、少なくとも今日、殉教することではありません。

イエス様がしたいことを直接することはありません。私たちを通してするのです。イエス様がしたいことを私たちがする。

でも、誰にでも苦手な人はいます。でも逃げ回ってはいけません。

幼きイエズスの聖テレジアの自叙伝に書かれていますが、彼女にも合わないシスターがいたようです。彼女はその人と会う時、あえて避けずに笑顔で挨拶をするようにしたそうです。

自分の方からいいことをするようにすると自分の立ち位置が変わり、見方、感じ方が変わります。相手は変わらなくても神を知り自分を知ることが出来ると、そこから「神ありご」神様、ありがとう、ごめんなさいと言えるようになります。

そしてある時、彼女は苦手な相手からこう言われたそうです。「あなたは私のどこがそんなに気にいって下さるの？」

明日から頑張るではだめです、今日から今からして下さい。今日の聖人にはなれるが、明日の聖人にはなれないんです。皆さんは今黙想会に来ているでしょう。それは神様の招きに答えていることなんです。もうそれは聖人ですよ。

教皇様の使徒的勧告「喜びに喜べ」の中で『人生の中で本当に悲しいのは聖人ではないことです』と言われています。神様の呼びかけに答えようと頑張った日はたとえできなくてもそれは喜びの日ですよ。聖人に必要なのは喜びですよ、ユーモアの無い聖人はいません。